R. S. C. D. S.
東京ブランチレター

No. 29

ブランチ・クラスがスタート！

東京ブランチは１０年の節目をこえ、つぎの１０年目に入りました。いままでの歩みを続けることはもちろんですが、新しいとりくみをはじめることも命題であり、そのひとつとして、会員各位のご協力を得てブランチ・クラスをスタートする運びとなりました。当面は月１回ですが、ゆくゆくはもっと回数、場所、クラス内容をふやしていきたいと思っています。

引き続きたくさんのかたがたのご参加を期待しております。

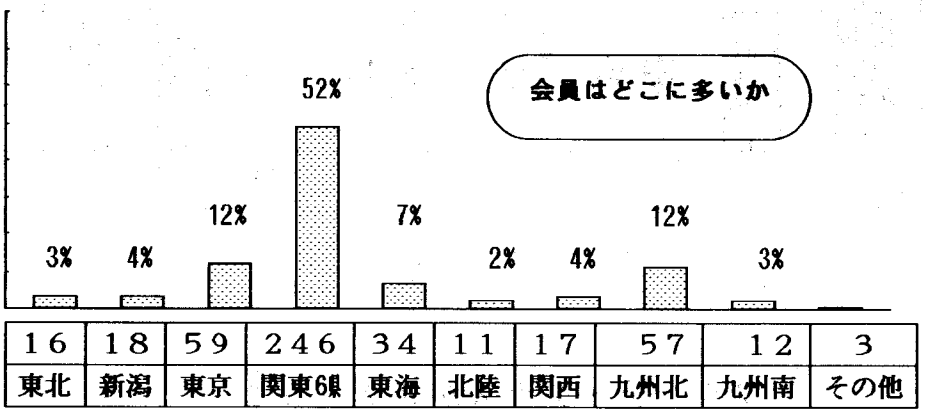
日　時：　第1回　7月15日（土）　6.30 - 9.00 PM
　　第2回　8月　5日（土）　6.30 - 9.00 PM
　　第3回　9月　2日（土）　6.30 - 9.00 PM（予定）
場　所：　二階堂芸術スポーツホール（京王線明大前駅下車４分）
会　費：　４００円（ブランチ会員は３００円）。当日徴収。
ティーチャー：　佐藤仁美さん（RSCDS Fully Certificated Teacher）が上記の３回を担当する予定です。
内　容：　Intermediate / Advanced Class を対象。
問合せ：　セクレタリまで。

９５年度東京ブランチ会員登録終る

本年度のブランチ会員登録を締め切りました。新会員数はつぎのとおりです（カッコ内は昨年の会員数）。

年次会員	３１１名	（２５６）
長期会員	１５９名	（１４６）
終身会員	３名	（３）
合計	４７３名	（４０５）

昨年よりも６８名増加し、数からいえば東京は世界でも十指に入る大ブランチとなりました。兼業ダンサーが多く、会員数＝実力かは論議あるところではあります。



ブランチ年次総会／初夏合宿報告

６月１７日・１８日の２日間、越後湯沢の和田ロッヂにおいて東京ブランチ年次総会／初夏合宿が開催されました。都心から離れて泊まりがけの年次総会ははじめてであり、総会が成立するかどうか危ぶまれましたが、長岡・新潟在住の会員のご協力を得て３５名が参加し、とどこおりなく終わることができました。総会内容については年会報Ｎｏ．１２をご覧ください。

年次総会出席者からは自由活発な意見、質問、要望が続々と出され、１時間の予備をとっていたのですが、それでもたりないほどでした。いままで年次総会やブランチ方針の決定などは自分にとって遠い存在であったが、出席してみてそうでないことがよくわかった、という感想が多く聞かれました。

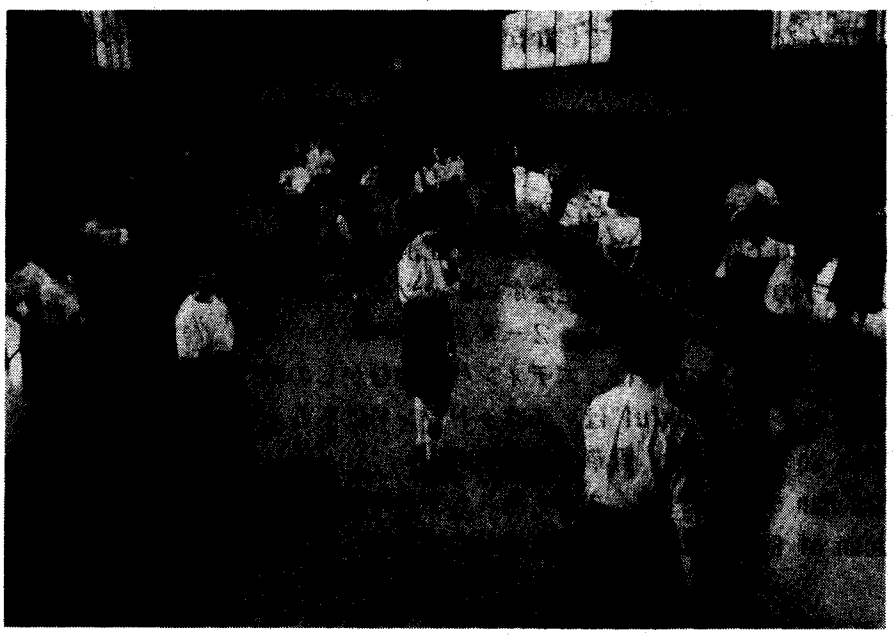
ダンスでは５人のティーチャーによるソシアル・ダンシングとレギュラー・クラスがあり、参加者はリラックスした気持ちで合計６時間のダンシングを楽しみました。

講習曲と担当ティーチャー（敬称略）：

Marcat Cross	Dunedin Dances	松橋順子（ピアノ小海弘子）
The Shuttle Bus	A.Leob	〃
Admiral Nelson	Book 19	岩崎誠司（ピアノ小海弘子）
The Stoorie Miller	Book 21	〃
The Sutherland Reel	Book 29	〃

越後湯沢は遠いようですが、新幹線を乗り継げばかえって川越市あたりよりも早く、便利でした。夜更けまでいま話題の広報部長の兄（？）をかこんで談笑したり、山菜中心の食事など、いままでのブランチ合宿とは一味ちがって大成功でした。

長岡・新潟の会員のかたにお礼申しあげます。キュウリ・トマト・プチトマト・そらまめ・八海山などみな満足しました。次回のブランチ年次総会／初夏合宿も同じような内容で行ないたいと考えています。



初夏合宿講習風景

1995年度東京ブランチ事業計画

年次総会において95年度の東京ブランチ事業計画が承認されました。出版および行事関係をまとめると以下のようになります。会員みなさんのカレンダーにチェックマークを入れておいてください。

時期	出版および手続き関係	行事関係
7月	年会報・レター発行・年次会員証送付	15　ブランチ・クラス開始
10月	レター発行・ポケット版 36-38送付	
12月	レター発行・ブリティン送付・ ブランチ合宿参加者募集	
2月		17-18 第９回ブランチ合宿
3月	レター発行・会員登録更新開始	
4月	96年度会員登録締切り	
6月		15-16 年次総会／初夏合宿

ＳＣＤクイズ（第５回）

スコットランドから遠くはなれ、歴史・暮らし・文化のことなる日本においては、ダンス名はたんなる符号の一つでしかないのかもしれません。でも、その由来を知ることによって踊る楽しみが何倍にもふえることは事実であり、ダンス名にたいして「何だろう」という探求心を失わないこと、みんなに由来をつたえることが、とくにリーダーにおいては大切だと思います。

つぎの解釈は当たっているかどうか、答え（当たっていれば○、間違っていれば×）をはがきに書いて下記あてお送りください。正解数の多い順、３名のかたにバンクーバー・ブランチのワークショップ記念ポロシャツをお送りします。

［問題］　（解答例：１－○、２－×、……）

１．"Gates of Edinburgh"は、エディンバラのむかしの城門のことである。
２．"Rest and be Thankful"は、スコットランドにある土地の名前である。
３．"None So Pretty"は、野草の名前である。
４．"Old Man of Storr"は、スカイ島ストア村の長老格の男性のことをいう。
５．"John of Bon Accord"は、お人好しのジョンという意味である。

解答宛先：　222　横浜市港北区篠原北 1-28-25　鳥山とよき
締 切 り：　９５年８月３１日（消印有効）
発　　表：　次号ブランチレター

－－－－－－

前号第４回のクイズ正解は、１－Ｃ，２－Ｃ，３－Ｃでした。６月１７日のブランチ年次総会の場で公開抽選を行ない、正解者のなかから星野薫さん（川越市）にビデオ『炎のランナー』をお送りしました。

［解説］"Reel of the Fifty-first Division"　51師団リールは、ドイツ軍の捕虜となったスコットランド第５１師団の将校３人によって、南ドイツ・バイエルンのラウフェンにあった第７連合軍捕虜収容所でつくられた。
"Laird of the Milton's Daughter"はインド赴任中のクレイグマイル卿が、友人であるジェイムズ・マッカーサー家の女の赤ちゃんのためにつくったジグ。スコットランドのバルモラル離宮にちなむ"Balmoral Strathspey" は、ニュージーランド北島カウェラウのジョン・チャールズ作。

１０周年記念ダンスブックの訂正

ダンス・ディスクリプションを見直した結果、誤り・記述不足の箇所があり、次ページのとおり訂正します。この記念ダンスブック、サンディエゴのマージョリー・マクラフリンさんがカナダ、アメリカ各地のワークショップで紹介・指導したところたいへん好評で、彼女から２０部の追加注文があったほどです。残部若干ありますのでご希望のむきはセクレタリまでお寄せください。１冊３００円＋送料です。

TOKYO BRANCH of THE ROYAL SCOTTISH COUNTRY DANCE SOCIETY
Tenth Anniversary Collection of Scottish Country Dances and Dance Tunes

正誤表
ERRATA

Page 2: . . . Each dance has its own character and we expect you will enjoy the dances and tunes.

Page 8:Bars41-48 should be read "2nd woman, 3rd couple and 4th man dance a crescent reel of four, while 2nd man, 1st couple and 4th woman do the same."

Page 9:Bars13-16 should be read "1st couple dance up under the arch made by 2nd couple and cross up to the original place. 2nd couple turn inward to follow 1st couple, and finish in 2nd place on the wrong side of the dance."

Page10:Bars25-26 should be read "1st couple cross over giving right hands and"

Page12:Bars 9-12 should be read "1st -and- 5th couples dance a half reels of four with 1st corners."

Page16:Bars25-32 should be read "All three couples dance a reel of six, finishing in the progressed places (Fig.)."

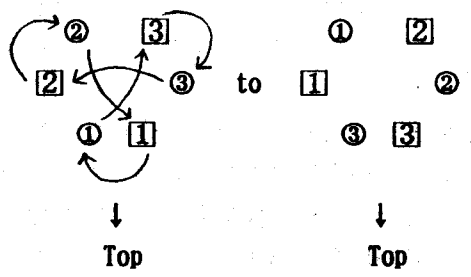


Fig.

以上のように誤記の訂正と表記の変更をいたします。

神戸の人間は元気です　＜東京ブランチの皆様へ＞

関西ホワイト・ヘザー・ダンサーズ　近藤　雅洋

阪神大震災で被災した９名のブランチ会員に、ささやかでしたがお見舞いをお送りしたところ、みなさんから丁重なお礼状をいただきました。そのなかから近藤雅洋さんのおたよりをお伝えします。

先般はブランチのみなさまから義援金をいただきまして誠にありがとうございました。（大震災直後にブランチ委員会から安否確認の電話をいただき、感激しました）今回は水・電気・ガスのありがたさを家族全員が肌で感じました。幸いにも家族全員無事で、マンションもあまり大きな被害はありませんでした。もう余震もなくなり、（また、サリン事件、オウム真理教等で）かなり昔の様な気がします。ＪＲも復旧しましたので、通常の生活に戻っています。但し、街のあちこちには地震の大きな傷痕が残っており、ビルの解体や高速道路などの復旧を毎日目のあたりしていますと、震災前の状態に戻るにはあと２～３年かかるのではと思います。会社はあの液状化現象で有名になったポートアイランドにあります。ポートライナーの代替バスもありますが、毎朝健康のために４０分歩いて通勤しています。

ダンスも（大阪まで乗り換えなしで行くことが可能になり）関西ホワイト・ヘザー・ダンサーズの例会に出席できるようになりました。

最後になりますが、私達神戸の人間は元気にやっています。心あたたまるお気持ちを今後も忘れずに頑張っていきたいと思います。皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

＊＊＊＊＊

<u>第３回スコティッシュ・カントリー・ダンス・フェスティバル・イン・東京</u>

７００人を越えるダンサーが集まり、５月２８日、東京体育館で都フォークダンス連盟主催による第３回ＳＣＤフェスティバルが開催されました。午前は松橋順子さん・佐藤仁美さんによる講習会（キーボード小海弘子さん）、午後はデモンストレーションをはさんでソシアル・ダンシングというプログラムでした。講習会では各セットそれぞれにブランチ・メンバーが入っている感じで、わりあいスムーズに踊れたようです。午後はいままで都ＦＤ連盟が発売したダンスによるパーティで、ブランチ・メンバーは終りまで広い会場のダンスを楽しみました。踊りごとにパートナーを変えることも浸透しはじめ、これを機にもっと本格的にＳＣＤをやってみたいという新しい人がふえることを期待しています。

都ＦＤ連盟は来年４月にも第４回フェスティバルを計画しているとのこと、内容がわかりしだいブランチレターでおしらせします。

バンクーバー・ブランチの３日間　　近藤幸子・鳥山豊喜・松橋順子

５月５日～７日に開かれたカナダ、バンクーバー・ブランチのワークショップ＆ボールに近藤・鳥山・松橋が参加してきました。実際にワークショップが行なわれたのはバンクーバーから北へバスで３時間ほどのリゾート地、ウィッスラー・ビレッジWhistler Villageです。雪はすでに消え、真っ青な空と新緑のホィッスラーですが、リフトで上ればまだ存分にスキーが楽しめる時期でした。概略日程はつぎのとおりでした。　（鳥山）

５月５日（金）夜　　……ボビー・ブラウン・バンドのコンサートとダンス５曲。
５月６日（土）午後まで　……Teacher ４人によるレベル別のワークショップ。
　　夜　　……ボビー・ブラウン・バンドによるボール。
５月７日（日）午前　　……ボビー・ブラウン・バンドによる合同ワークショップ。

例年、ワークショップとボールはバンクーバー市内のスコティッシュ・センターで行なわれていましたが、年々参加者の減少が目だってきたため、なにか新しい企画を……ということで、ちょうどシーズンオフのウィッスラー（スキー・リゾートで宿泊施設、開催会場等そろっている）に場所を移してやってみよう、という試みが実現したのです。そのねらいは的中して、クラスには２７８名、ボールには４８０名の参加となり、過去最高の盛会となりました。　（松橋）

初日ボビー・ブラウン・バンドのコンサートはクラシック歌曲、スコットランド民謡、アメリカンミュージック、ステップダンスありの３時間でした。途中にスタンツがあり、ボビー・ブラウンが舞台で喋りはじめると、ボビーの衣装はみな他人のものでキルト、シャツを返せと持ち主からいわれて最後には下着だけになってしまい、観客は大笑い、という寸劇でした。　（鳥山）

２日目、ワークショップVery Advanced Class の最初はロン・ウォリス氏。要所をきちんと締め、ばねのよく利いたきれいなステップが印象的でした。１曲目の"Lord Kilmarnock" は、2nd CornerからのDiagonal Chainが珍しい踊りでした。２曲目は東京ブランチではなじみの"Ellie's Jig" 。２人目のエリノア・ヴァンディグリフトさんはやせぎみの小柄な人です。豊富な経験がにじみ、伝えるべきところは迫力をつけ、流れにのった指導で興味深く感じました。"Little Strathspey" を踊りましたが、Set and Linkのあと 1st Cplが1st Cornerを向くのが面白い踊りです。最後はメリー・マリーさん。88-Bars Square Formationの"Dancing Years" と4-Cpls Danceの"Glencoe" を指導しました。相変わらず容姿、ステップとも美しく、めりはりがあって、こちらも初対面ではないためか、聞きやすく、動きやすい指導でした。　（近藤）

［講習曲］	Lord Kilmarnock (I.Boyd)	32R	by Mr Ron Wallace
	Ellie's Jig (M.Briscoe)	32J	〃
	Little Strathspey (J.Drewry)	32S	by Mrs Elinor Vandegrift
	Dancing Years (R.Goldring)	88R	by Mrs Mary Murray
	Glencoe (B.Priddey)	32S	〃

わずか１時間でしたがステップ・ダンスのオプショナル・クラスに参加しました。指導はロン・ウォリス氏で、"Miss Forbes" をカラム・マッキノン氏のフィドルで踊りました。ロンは髭面で、ビヤ樽のようなおなか、体重は一見○○○kg?! なのに、軽々と、粘り強く大きなステップを踏みます。しなやかな足首、ダイナミックなのに決して重くなく、流れるような動きでした。
複雑なステップを噛み砕いて指導していきます。さすがにキャリア豊富な先生で、フィドラーとの

息もぴったりあっています。ちなみにステップ・ダンスはハイランド・ダンスとは異なり、あくまでもGentleに、Softに踊ることが大切、との考えでした。たりない！たりない！もっと教わりたい１時間でした。 （松橋）

ボールが始まる１時間前から食前酒シェリーをいただきながらパーティです。男性は黒ジャケットにキルト、女性もそれぞれ盛装しています。多くの人から話しかけられ、とっさに答えられない自分がもどかしい。笑顔でおぎなってなんとか……。パーティからボール会場までは、パイパーに先導されて 400人がホィッスラーの街中をマーチングしました。通る人、レストランにいる人はもちろん、ローラーブレードの若者も動きを止めて注視のなか、 400人のダンサーは会場についたのです。ここでもブランドンさんに白ワインをすすめられました。ディナーテーブルは自由選択です。隣席の人たちは食事のみらしく、ダンスのことはよく分らないようでしたが、ワインの助けもあって話がはずみました。すごい人数なので、ローストビーフを切りわけてもらうのに長い列ができ、定刻をオーバーするほどでした。 （近藤）

ディナーとボールは同じフロアを使います。いったんロビーに出、会場整理のあとグランドマーチでいよいよスタートです。鳥山さんと腕を組んで入場。ライブ演奏で８、１６、３２人と、会場を半周するたび列が大きくなるのには、やっぱり感激しました。女性のドレスについて印象を述べましょう。白のロングドレスにサッシュ、という人はだれひとりいません。それぞれに色とりどりのドレス（ワンピースです）で、ロングとミディは半々くらいでした。目をひいたのは、そう、メリー・マリーさんでした。赤と緑の大柄なタータンチェックのロングスカート、よーく色の合った緑のベスト、白のレースを多用したブラウスで、可愛いとしか言いようがありません。ほかにもシルクのチェックのロングスカートが２～３人いたので聞いてみたら、アメリカで買った由、本物のパターンではないけれどとても鮮やかでした。 （近藤）

ボールはRSCDS サマースクールと同様、リカップもなく、すぐに音楽でした。カップル数カウントは、トップの男性が行なうのがバンクーバーのやり方です。ただし並んでいる男性の後ろ側をカウントダウンするのには『へえー』という思いでした。４８０人のボールですからそれほど経験のない人も多く、"Bratach Bana"などは、てこずっているセットを散見しました。 （鳥山）

なんといっても「生（ナマ）」は良いですね。おなじバンドの演奏でも、レコードと「生」ではこうも違うのか!!と思うほど生き生きしていて迫力があるのです。のっています。ダンサーを見てバンド・メンバーも心湧き立ち、その演奏でダンサーも和気藹々となっていました。ボビー・ブラウンは「クランズマン」や「フライング・スコッツマン」といったバンドを経て、1976年"The Scottish Accent" を結成しましたが、その華々しい演奏活動からうまれたテクニックと、ボビーの「右腕の男」と信頼されているKathy Fraser（本当は女性）の協力を得て、今夜も見事なアンサンブルを作り上げていました。パンチがあり、軽妙でお洒落な演奏でした。 （松橋）

合同ワークショップはウィッスラー中心からややはなれた小学校体育館で、４人の Teacherがそれぞれ１曲を指導しました。ややこしいダンスではなく、ことにメリ・マリーさんの"Pinewoods Two-Step" はウォークのみの RTRダンスでした。ここでびっくりしたのは、クラスにもかかわらず演奏はボビー・ブラウン・バンドだったのです。"Ready, and !"でミュージシャン６人が８小節を演奏するなんて、バンドの豊富な経験を感じさせました。 （鳥山）

東京ブランチができるとき、隣接ブランチとして RSCDSに設立を推薦してくださったハワイ・ブランチ（当時）のブランドン夫妻とは、1984年のサマースクール以来の再会でした。『東京ブラン

チ１０周年行事はどうだったの？』と尋ねられ、お礼と報告が送られていないのでは、とはっとしました。ブランドン氏は足に故障があり、奥様もダンスより旧交を暖めるのに忙しくしていました。そしてメリー・マレーさん。日本から参加したことを、とてもとても喜んでくれました。でも、大変に忙しそう。言葉をかけるのも申し訳ないような気がしました。他の人たちも気を遣ってくれ、共通の楽しみをわかちあうＳＣＤファミリーの感を深くしました。　（松橋）

メリー・マリーさんとはウィッスラーで再会しましたが、３人の参加申込みを受理したけれどなにも連絡がなく、いつ到着するのか、バンクーバーではどこに泊まっているのか、と心配させてしまいました。ブランドンさん夫妻とボブ・ブラッキーさんとは、昨年のサンディエゴ以来で、「やぁ、またきたの」という感じ。マージョリー・マクラフリンさんたちはやや遅れてやってきて、顔をみたとたん走り寄り、ことにママとは抱き合って再会を喜びました。そして嬉しかったのはキャサリンと会えたことです。彼女（日本語の先生です）から『ＢＢＣでステップダンスやってたでしょ』と声をかけてくれ、よくおしゃべりもし、ダンスも楽しみました。意識よりも言葉がさきに出るのは楽ですね。キャサリンはご主人と坊やを連れての参加でした。日本人は物珍しかったのか、男性・女性からひっきりなしに誘われ、３日間を通じて踊らなかったのは１曲だけという驚異(?!)の状況でした。なかには『男役をやってね』というお誘いもありましたけれど。サンディエゴで会ったダイリキさん、その他の人とも再会を喜びました。　（近藤）

妙に親しげに話しかけてくる男性がいて、いろいろ話した後『失礼ですがお名前は』と聞いたのです。『私？ボブ・ブラッキー』との言葉が返ってきてたいへん恐縮しました。　（島山）

バンクーバー市とビクトリア市は、とにかく清潔で明るく静かで、車も人も少ない。緑のなかに住いがあるし、両市の公園は花いっぱいでした。『皆んなにも見せてあげられたら』と順子さんとなんど言い合ったことか。でもチューリップの花の下が長い（70-80cm)のはなぜ ?! ビクトリアはバンクーバーからバスとフェリーで３時間、ブリティッシュ・コロンビア博物館とブッチャート・ガーデンだけの１日観光ではもったいないところです。このつぎはぜひ時間をかけて行ってみたいですね。　（近藤）

モダンなガラスのビルが林立する都市、鏡のような海、右側通行の車、雪を頂く山々、そしてフェリーが人々の足になっている入江の多いところ、それがバンクーバーです。ネイティブ・インディアンの巨大なトーテムポールが観光客を驚かせるスタンレーパーク。はなみずきはドッグトリーといって市の花であり、バンクーバー・ブランチのバッジにもなっています。ビクトリア市ではブリティッシュ・コロンビア博物館に見ものがたくさんあります。先住民の歴史、トーテム（無垢の木で作ったものは圧巻！）、村の入り口、などなど……ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー、ビクトリアの近代史は1800年代から始まるのです。それにしても秋から冬へはどんなであろうと想いをはせる、美しくて静かなカナダのバンクーバーでした。　（松橋）

バンクーバーでなにが安く、美味しいかといえば、寿司なのです。ネタは新鮮、米はカリフォルニア米、厚さ１センチのウニ丼などは８００円で、潮の香りがきつくて平らげるのに苦労したほどです。繁華街でも夜８時をすぎると人通りが少なくなるけれど安全な町です。そして日本語情報誌が３誌もあるほど日本人の多いところです。バンクーバー市の様子もわかりましたので、このつぎのワークショップには大勢の東京ブランチメンバーとともに参加したいと思っています。（島山）

本部短信　○総括委員会(2/11)　ルクセンブルク・スコティッシュ・カントリー・ダンス・クラブ（ルクセンブルク公国）のAffiliation が承認された。

２．先頃の阪神大震災でブランチ会員は無事であった、との東京ブランチからの報告が読みあげられた。

３．1997年のＡＧＭはアバディーンで、という同ブランチからの要請があり、委員会はありがたく受入れることにした。（1995年はエア・ブランチ、1996年はダンディー・ブランチがホスト）

○財務委員会(2/18)　６人の応募者の中から、ミス・ギリアン・パーカーを新セクレタリに採用した。

２．もう１台のパソコンを 1,500ポンドを上限として購入する。

３．コスト上昇のため、1996年のソサエティ手帳は製作しない。

○調査出版委員会(1/14, 2/25)　音楽小委員会メンバーは、ミュリアル・ジョンストン、ボビー・クロウ、ジェニファー・ウィルソン、ギリアン・カミンズの４人で、委員長はＭ．ジョンストン。

２．Book 18 音楽の演奏はコリン・デュアー・バンド。イアン・ミュアー・バンドからのオファーも受領したが、次回以降で引き続き考慮していく。

○試験委員会(1/7)　試験官名簿が確認された。17人が英国、８人が海外在住である。

２．96年 3月23日（土）にチューター・コースを開催する。各ブランチは申込みを。チューター候補者コースの開催も考慮する。

３．96年にミュージシャン・コースが開催可能か検討している。科目はピアノ、チューターに適当な人材がいればもう一つの楽器、となる。

４．日本でのTeachers' Examにおいて、チューターとなる人のためになんらかのガイダンスが必要かどうか議論された。

○サマースクール委員会(2/4)　ソシアルダンス・プログラムが承認され、ディレクターのマクファジェン博士から立案者ミセス・ニダーマンに感謝の言葉があった。

２．2/4 現在,300を越える参加申込みがある。例年どおりの出足である。

３．Cape Breton Step Dancingをサマースクールにとりいれるか、議論された。ことしは見送る結論になったが、他のスタイルのダンスも含め引き続き考慮していく。

４．ヤンガーホール・ダンスのバンドはつぎのとおり。

７月２４日	ジム・ベリー	７月３１日	デビッド・カニンガム
８月　７日	デビッド・ホール	８月１４日	アリステア・ハンター

新カセット・ＣＤ紹介

１．"Reel Friends" devised by Ann Dix and played by Craigellachie Band.

Side 1 ; Why Not?(40R), Culla Bay(32S), Two of the Best(96J), The Vale of Strathspey(32S), Forbes Rant(32J), The Haggis Hunters(64S+64R)

Side 2 ; Shene Gate(32J), Tom Steele(32S), The Penny Whistle(32J), Black Potts(32S), Bon Voyage(32R).

"Ennismore S'pey" の作者であり、ロンドン・ブランチでデモンストレーション・チームを指導しているアン・ディックスのダンスブックで、カセットはクレゲラヒー・バンドが演奏している。8-times through のダンスは Forbes RantとBon Voyageの２曲のみ、のこりは 3ないし4-times through である。バンドはアコーディオン、ピアノ、フィドル、ドラムスの構成、しっかりしたテンポでモダン・ダンスを楽しめる。ダンス解説書つき。　（注文略号　リール・フレンズ　¥1,800）

２．"North of the Tweed" by Muriel Johnstone Trio.

Flowers o' the Forest, Set of Jigs(6x32), South and North, or Both Sides of the Tweed 2x(32S+32R), The Gentle Shepherd(64J+64R), Ca' the Ewes, Maxwell's Rant(3x32R), Go to Berwick Johnny, Sir John Fenwick's the Flower of Them All, Tweed Side(3x36W), Set of 9/8 Jigs(3x32), Set of Reels(4x32), Mrs Fordyce of Ayton(2x32S+4x32J), Blue Bonnets over the Border.全１３曲。

前号のブランチレターでおしらせしたミュリアル・ジョンストンのＣＤである。ピアノとアコーディオンのデュオと予告されたが、実際はジュディス・リントンのフィドルが加わったトリオ演奏である。曲目内容は、予告どおりリスニングのためのものであるが、 Set of Jigs, Gentle Shepherd （ダンス指定はスロー・ジグ）Set of Reelsなどはダンシングにも十分に流用でき、余ったカップルでもう一度ダンスするときなどに有効である。いままでのミュリアルのレコーディングとの大きな違いは、彼女自身による曲が一つもなく、すべてボーダー地方（ツウィード川の北）の民謡で構成されていることである。もちろん編曲はすべてミュリアルのものであり、シャープでありながらゆったりした演奏に、スコティッシュ音楽への愛着がいっそう深まるであろう。「ながら族」にも適している。

（注文略号　ノース・オブ・ザ・ツウィード　¥2,200）

上記カセットおよびＣＤの申込み先：郵便振替で、

口座番号　００１７０－８－　１６０２７８

加入者名　鳥山とよき　　価格は郵送料込みです。

（注：これらの品物はＲＳＣＤＳサマースクール・ショップでも発売されるはずです）

事務局から

○３月のブランチ合宿におけるミュージシャン“タープシコア”のライブ演奏テープ全１巻が、サウンドエンジニア小幡正明さんのご尽力でできあがりました。合宿参加者にかぎりお一人１本で参考資料として実費でお頒けいたします。入手ご希望の方は下記あて郵便振替（前ページの新譜との同時送金可）によりお申込みください。

口座番号　００１７０－８－　１６０２７８
加入者名　鳥山とよき
価　　格　￥８００（郵送料込み）
締　　切　８月３１日

著作権に関わるため、一般発売ができません。合宿参加者以外のかたからのお申込みはご容赦ください。

○ブランチ・クラスに参加できない地域の会員・グループは、ブランチからのティーチャー派遣を積極的にご活用ください。交通費・RSCDS ベースによる謝礼はご負担いただくことになりますが、複数会員で分担すれば訪京するよりも低廉な費用でクラスを持つことができます。ティーチャー指名・無指名いずれも可能です。セクレタリあてお問い合わせください。

○７月に映画『ロブ・ロイ』が封切られます。"Rob Roy"(H.Foss), "Rob Roy MacGregor"(Book 26)とはこの人のこと。映画向きの物語になっていますが、時代背景は当時をよく映しています。４７３名必見のこと！

○前号ブランチレターでおしらせした RSCDSの新しい音楽、ビデオはまだ詳細不明なため、次号でご紹介いたします。クレメント篤子さんがビデオに出演しているとのこと、ご期待ください。

○ことしのサマースクールには、日本から例年以上に大勢のダンサーが参加するようです。おおいに楽しんできてください。Safe journey！

RSCDS 東京ブランチレター 1995.7.24 発行
ＲＳＣＤＳ東京ブランチ
セクレタリ 掛川純子（すみこ） 0480-33-3494
345 埼・宮代町宮代台 3-4-14